

質問日	令和2年3月10日(火)		質問方式	一括方式			
質問順位	2	会派名	公明党	議席番号	7	氏名	山崎とし子
表題	質問内容						答弁者の職名
1 音と人との新たな関係を創造するサウンドデザイン事業について	<p>2014年にユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野に本市が加盟し、翌年、世界創造都市フォーラムを開催した。その中で採択された「音楽の多様性と創造性を探求する浜松アジェンダ」において、音楽の新たな可能性を探求していくことを宣言した。音の力は、音楽だけではなく医療や教育などのさまざまな分野にも広がり、現在新たな時代を切りひらいている。2016年のサウンドデザインシンポジウム、2017年に初めてサウンドデザインフェスティバルが開催され、ことしも秋に開催されることが決まり、大変期待している。人間により影響を与える音の研究は楽器産業が集積した浜松でしかできない事業だと思う。これからもさらに関心のある市民をふやしていき、この活動を浜松市ワゴンチームで取り組んでいくことが重要と考えるが見解を伺う。</p>						寺田文化振興 担当部長
2 音楽療法の普及について	<p>ユネスコ創造都市ネットワークに加盟後4年間の事業と成果が2018年に発表され、次の4年間の中期アクションプランには、音の可能性の最大化を目指すとともに、創造性のシナジー効果を生み出す新たな挑戦に取り組み、医療、教育、福祉、環境などさまざまな領域においても音楽や音の持つ可能性を広げるとある。医療や福祉の分野で音楽の可能性を探求していくことが次の挑戦だと考えるが、そのために音楽療法の普及を進めていってはどうかと考える。本市でも音楽療法士が活躍していて、福祉施設や精神科との連携で音楽療法を行っていると聞く。まずは音楽療法の知識を市民に周知するため、音楽療法を取り入れたセミナーなどを開催してはどうかと考えるが、見解を伺う。</p>						朝月健康福祉 部長
3 ふれあい交流センターについて	<p>4月から、市内12カ所の老人福祉センターなどがふれあい交流センターに転換される。高齢者と子供が世代を超えて交流できる場として、イベントや、子供向け講座の開催など大いに期待される一方、部屋の予約がとりにくくなるのではないかと心配や不満が出ることも予想される。子供が個人で利用するときの条件や、万が一の事故などの対応を考えると、さまざまな対応が必要になってくるのではと考えるが、以下2点伺う。</p> <p>(1) 高齢者と中学生までの子供たちと両親を含め、どのように施設を利用できるようにするのか伺う。また、浴室の改修計画について伺う。</p> <p>(2) ふれあい交流センターの活用が軌道に乗るまで、各施</p>						朝月健康福祉 部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>4 高齢者が安心して生活できる浜松に</p>	<p>設管理者が意見交換をする場を設けていくことが重要だと考えるが見解を伺う。</p> <p>ひとり住まいの高齢者や高齢者のみの世帯が多くなっている中、誰にもみとられることなく亡くなる人がふえているように感じる。これからは、一人でも、生活に困らず、安心できる制度が重要になってくると考えるが、以下3点伺う。</p> <p>(1) ひとり暮らし、または高齢者世帯への民生委員による家庭訪問について、どのように調査しているのか、また調査結果をどのように施策に反映しているのか伺う。</p> <p>(2) 緊急通報システムは、持病のある人には、緊急時の不安が緩和され、頼りになる便利なシステムだが、システムの内容と利用状況について伺う。また、緊急通報を受けて訪問したときに玄関に鍵がかかり、入室不可の場合どのような具体的な対応が考えられるのか伺う。</p> <p>(3) 高齢者がごみを出す際、収集場所まで運ぶことが大変で、困っている人が多いと認識している。</p> <p>朝日新聞が74自治体に2016年度における普通ごみ回収支援の有無についてアンケート取材したところ、6割の48自治体が支援に乗り出し、5万世帯以上が利用している。この10年ほどでごみ出し困難世帯が急増しており、これからもさらにふえると予想される。他の自治体では、「ふれあい収集」支援、委託による支援やコミュニティによる支援など、さまざまな方法で独自のごみ出し支援を行っている現状である。</p> <p>本市では、55の地区社会福祉協議会のうち、26カ所で家事支援を行っており、その中でごみ出しサービスを利用するか、介護サービスのホームヘルパーにお願いしている現状である。これからさらにごみ出し困難者がふえていくと見込まれることから、高齢者世帯へのごみ出し支援を行う考えはないか伺う。</p>	<p>朝月健康福祉部長</p> <p>〃</p> <p>影山環境部長</p>
<p>5 キッズゾーンについて</p>	<p>昨年、大津市で起きた保育園児の散歩中の事故に対して、本市でもすぐに散歩コースの緊急点検を実施し、改善工事を進めているが、30キロ規制でもスピードマナーが悪いドライバーも多く、まだまだ不安がある状況である。昨年11月に内閣府と厚生労働省が、保育施設周辺の道路で、ドライバーらに園児への注意喚起をするために重点的に対策を講じるキッズゾーン整備の通知を各都道府県・指定都市・中核市に出した。園児が安心して散歩ができるよう保育園を中心に半径500メートル以内を対象範囲とするキッズゾーンを設置する必要があると考えるが見解を伺う。</p>	<p>金原こども家庭部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
6 歯の健康等について	<p>歯と口の健康対策は、健康を維持する上で大変重要である。歯の健康づくりの象徴である8020運動に加え、市民の健康増進及び健康寿命の延伸のためさらなるオーラルフレイル予防の取り組みが必要と考える。そこで、ふだんの取り組みと、災害時における対応について、以下2点伺う。</p> <p>(1) 歯周病検診を定期的に受診することが大切である。歯周病検診の対象者には受診勧奨のための個別通知が送付されているが、受診率の現状と受診率向上の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 災害時にオーラルフレイルによる誤嚥性肺炎を防ぐために、歯科医師と連携し、発災後の避難所での口腔ケア指導を行っていく必要があると考えるが見解を伺う。</p>	<p>新村医療担当部長</p>